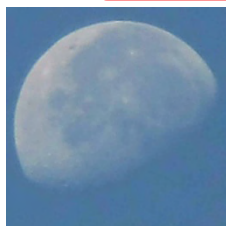




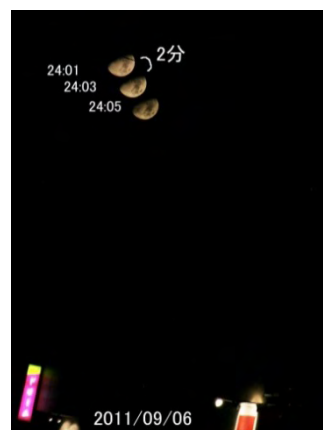
コンパクトデジタルカメラを使用した月の撮影方法



皆さんは月の単元の授業では、どのような写真を活用していますか。教科書の写真を活用していますか。もし、先生が撮影した月の写真だったら、子どもたちはどのように感じるでしょう。「え～、これ先生がとったの?」「これはどこからとったの?」「どうやってと

ったの?」などの興味や関心の声が子どもたちから出てくるのではないのでしょうか。学校の校舎や校庭など、子ども達の身近な場所が背景にあったら、子ども達は月を身近に感じるきっかけになるのではないのでしょうか。

ここでは、身近になったコンパクトデジタルカメラを使用した、“月の表面の写真”と“月の動きの写真”の撮影方法を紹介します。表紙の写真はすべてコンパクトデジタルカメラで撮影したものです。皆さんもどうぞ試してみて、授業に活用してみてください。



準備するもの

☐ コンパクトデジタルカメラ ☐ 三脚 ☐ 時計 ☐ 方位磁針

どんなコンパクトデジタルカメラでもよいのでしょうか？

- ①ズーム …ズーム機能にはデジタルズームと光学ズームがあります。その2つを併用したときに 40 倍くらいあると、月の表面まで撮影することができます。
- ②撮影モード …残念ながら、月の撮影モードはないと思います。Auto モードで測光方式が切り替えられるカメラを選ぶとよいでしょう。また、ISO 感度も選択できるなら、よいきれいな写真を撮影することができます。
- ③セルフタイマー…月の撮影ではシャッターを押す振動で写真がブレしてしまう場合があります。そんなときに使うのがセルフタイマーです。セルフタイマーを2秒に設定しておくと、シャッターを押した2秒後に撮影されるので、写真がブレずにすみます。セルフタイマーは 10 秒でもかまいません。
- ④三脚 …コンパクトデジタルカメラと同様にかかせないのは三脚です。手でカメラを持つとどうしても写真がブレしてしまいます。三脚は普通のカメラ用のものでも、小型のデジタルカメラ用のものでもかまいません。